

学会創立20周年記念事業

日本放射光学会会長
雨宮慶幸



第22回年会・放射光科学合同シンポジウム（1月9日～12日）、及び、学会創立20周年記念事業（シンポジウム・式典、1月10日）が東京大学本郷キャンパスで盛況のうちに開催されました。詳細は次号に報告されますが、ここでは、まず簡単にその概要を報告します。

今回の合同シンポジウムの期間中には、学会創立20周年記念事業が開催されたこともあり、参加者数、発表件数、企業展示数がこれまでの最多記録を更新しました。実行委員会（尾嶋委員長）、プログラム委員会（柿崎委員長）、組織委員会（山本委員長）の皆様のご尽力に感謝します。

学会創立20周年記念事業として東大・安田講堂で1月10日に開催された市民公開講座「夢の光が未来を拓く」では、秋光純氏（青山学院大学）、二宮利男氏（元兵庫県警察科学捜査研究所）、難波啓一氏（大阪大学）の3名の方に講演して頂き、一般市民を含む700名を超す聴衆の方が参加しました。引き続き行われた記念式典では、小宮山東大総長、倉持文科省審議官、Winick スタンフォード放射光研究施設元副所長から祝辞を頂き、最後に佐々木泰三先生（第2代会長）から挨拶を頂きました。記念式典には、来賓として、Ken Liang 教授（台湾放射光研究施設所長）、関連する13の学術学会の会長の方々、多数の企業の方々に参加頂きました。放射光科学の学際性、国際性、社会貢献性の大きさを象徴するような形で盛況のうちに学会創立20周年記念事業を開催できたことを会員の皆様と共に喜びたいと思います。また、このような機会が、今後の放射光科学と本学会の更なる発展に繋がる一つのトリガーになるものと確信しています。

昨年12月には第3回アジア・オセアニアフォーラム（AOFSSR）が Melbourne（Australia）で開催され、本学会からも放射光施設のスタッフやユーザーの方が多数参加し、アジア・オセアニア地域における放射光研究施設間の情報交換、そこで展開されている放射光科学の研究成果の情報交換が行われました。また、昨年10月には第2回ケイロンスクール（Cheiron School）が SPring-8 で開催され、アジア・オセアニア地域から約70名の若手研究者が参加しました。このように、アジア・オセアニア地域での放射光科学の急速な発展とそれに対する本学会のハブとしての役割への期待が益々大きくなってきていると強く感じます。AOF 活動を牽引している高田さん、下村さんのご尽力に感謝します。

さて、われわれ執行部の任期もあと9ヶ月弱となりましたが、下記の指針を掲げて、活動を継続していきたいと思っています。

1. 新しい放射光科学の推進

放射光科学のピークを高める議論、次世代放射光源計画の推進

2. 他学会との連携強化

放射光科学の裾野の拡大

3. 若手研究者の育成

講習会の開催, 「若手を中心にした研究会」の公募

4. アジア・オセアニア地域の放射光科学のハブとしての役割強化

「アジア・オセアニアフォーラム」(AOFSSR)の継続と発展

5. 放射光研究施設間ネットワークのハブとしての役割強化

学会創立20周年を迎えたこの機会を一つの節目として, 今後の10年, さらには20年というスパンを意識した放射光科学の発展を目指して, 会員の皆様と共に学会活動を更に活性化していきたいと思えます。
よろしくお願ひします。